

RECARO FORMEL 3 CUP (ドイツF3) Round 1&2 in Oschersleben

練習走行レポート

4月 21日 (金)



結果 1回目:13番手 2回目:14番手

穏やかな小春日和の中、ここドイツのオッシャースレーベンで、松村浩之選手のレカロF3カップへの新たな挑戦がいよいよ始まった。初日の今日は8:30から1回目、11:20から2回目の公式練習走行がそれぞれ1時間ずつで行われ、出走30台全車が明日以降の予選・決勝に向けての最終調整作業を行った。

走行1回目の松村選手は、車両の最終調整というよりは、オフシーズンのテストなしのブツケ本番という状況で、ダラーF306やスペースオペルエンジン、そしてハンコックタイヤ等、どれをとっても初めてであったため、シートポジションの確認やシフト、ステアリング、ペダル等の各操作系の完熟、久しぶりに走るオッシャースレーベンのコース状況の確認等しながらの走行となった。8:30の走行開始とともに230km程の中古タイヤを装着してコースインした松村選手は、最初の数周はトップ5近辺のタイムで完熟走行を続けていたが、オーバーステアがキツイということでピットイン。そこでチームはフロントウイングの調整をし、松村選手を再度コースへと送り出した。その時に判明したのだが、松村選手の車両のトランスミッションから原因不明のオイルリークが発生しており、その後は常にオイルを継ぎ足しながらの走行となった。そしてタイムを少しずつ上げながら走行を続けていた松村選手だが、周回を重ねるにつれて車両のバランスがアンダーステア傾向に変わってきてしまったということで再度ピットイン。チームはそのコメントから、リヤのスタビライザーのセッティングに変更を施した。その変更により多少は良くなり、その後少しずつタイムを縮めていった松村選手だったが、結局最後までアンダーステアが解消することがないまま、合計29周を走って、1回目の走行を終えた。タイムはトップから2秒462遅れの1分24秒227で、30台中13番手となった。同じスイスレーシングのチームメイト達は、ドイツ人のDominikSCHRAML選手が1分23秒550のタイムで9番手。そして、ブラジル人のMarcelloTHOMAZ選手が1分24秒350のタイムで14番手となった。1回目のトップタイムをマークしたのは、昨年のフォーミュラBMWドイツの覇者NicoHULKENBERG選手で、タイムは1分21秒765だった。しかし、トップの数台は1回目の走行からニュータイヤを装着していた。

走行2回目は、1回目で抱えていたアンダーステア傾向のマシンバランスを改善させるため、フロントウイングを元に戻し、多少の車高調整を施した状態でコースイン。また、松村選手の車両が装着しているブレーキシステムがチームメイトのものと違うため、前後のブレーキバランス調整の振り方にも違いがあることが判明。インターバルの間にかかなりフロントよりに調整を施した。そして、数周を走行し、1分24秒667のタイムをマークしたところで1回目のピットイン。アンダーステアは更に多少の改善を感じるが、「どうもタイヤがライフ的にかかなり厳しい状況にあり、マシンのバランスなのか、タイヤの磨耗によるグリップ不足なのかかわからない」との松村選手のコメントにより、多少早めではあったがタイヤを新品に交換することとなった。同時にチームは「ストレートスピードが伸びていない感じがするし、空力的にも問題なさそうである」という松村選手のコメントから、新品タイヤによるグリップアップも考え合わせ、前後とも大きくダウンフォースを減らすことを決めた。そして新品タイヤによるタイムアタックが始まったが、走行開始後数周でタイヤも温まり、これからアタックというところで松村選手はピットイン。ダウンフォースが減りすぎていて、高速コーナーが若干不安定で走りづらいということで、前後ともウイングを元に戻して再度コースイン、アタックを再開した。最初のアタックラップでは0.4秒タイムを縮め、1分24秒2をマーク。そして、次の周には更に0.3秒を縮め1分23秒775のタイムをマークした。そして、いよいよ車両やタイヤやコースに慣れ、ここからが本当のアタック、というところで痛恨のスピンを喫し、コースオフ。グラベルにはまってしまい、そこで走行終了となってしまった。走行時間は6分程残っており、「そのまま走行を続けていれば、今の状態のままでも十分に22秒台には入ったはず。もっと走りたかった。」と、松村選手はスピンという結果を非常に悔しがっていた。結局1分23秒775というタイムはトップの2.306秒遅れで、14番手の順位となった。チームメイトのTHOMAZは旧型マシンのユーザーの2番手となる1分23秒274のタイムで総合10番手となった。同じくチームメイトのSCHRAML選手は、松村選手と同じく、アタック中にスピンを喫してしまい、1分23秒519のタイムで12番手となった。総合のトップタイムをマークしたのは、メルセデスエンジンユーザーで、昨年のフォーミュラ・ルノーのオランダシリーズでタイトルを獲得したオランダ人のV.d.Z.RENGER選手で、1分21秒469のタイムであった。

明日(22日)は、1回目の予選と決勝がそれぞれ行われる。走行後、松村選手は、F3デビュー戦の予選と決勝の前に、チームオーナー兼エンジニアのオスマー氏と明日に向けたマシンセッティング及びドライビングの改善点を見つければ、走行データの解析とブリーフィングに余念がなかった。

<走行後のドライバーコメント>

オフシーズンにはどうなることかと思いましたが、オッサースレーベンのサーキットをF3マシンで走ることができ、遂にF3でレースができるんだなという実感が湧いてきました。

まだまだF3マシンに慣れるという段階で、タイム的にもドライビング的にも満足できるような練習結果ではありませんでしたが、走りの面でも徐々に掴んできているものもあるので、明日の予選・決勝がいまから楽しみです。とにかく年末のマカオGPで優勝できるようなレベルに一日でも早く達するよう、一周一周を確実に走り、着実に経験を積んで行きたいと思います。とにかく頑張ります！応援宜しくお願いします！

PRACTICE 1

出走 30台

POS	No.	DRIVER	NAT.	TIME
1	25	Nico HULKENBERG	GER	01:21.765
2	3	Joey FOSTER	GBR	01:22.178
3	16	Recardo BRUINS	KOR	01:22.608
4	5	Ferdinand KOOL	NED	01:22.701
5	8	Renger Van Der ZANDE	NED	01:22.813
6	2	Martin HIPPE	GER	01:22.940
7	27	Riccardo AZZOLI	ITA	01:23.172
8	46	Harald SCHLEGELMICH	LAT	01:23.406
9	10	Dominik SCHRAML	GER	01:23.550
10	28	Salvatore GATTO	ITA	01:23.685
=====				
13	11	Hiroyuki MATSUMURA	JPN	01:24.227

PRACTICE 2

出走 30台

POS	No.	DRIVER	NAT.	TIME
1	8	Renger Van Der ZANDE	NED	01:21.469
2	6	Ho-Pin TUNG	CHN	01:21.658
3	25	Nico HULKENBERG	GER	01:21.941
4	27	Riccardo AZZOLI	ITA	01:22.492
5	46	Harald SCHLEGELMICH	LAT	01:22.503
6	5	Ferdinand KOOL	NED	01:22.559
7	16	Recardo BRUINS	KOR	01:22.571
8	3	Joey FOSTER	GBR	01:22.669
9	2	Martin HIPPE	GER	01:23.155
10	50	Marcello THOMAZ	BRA	01:23.274
=====				
14	11	Hiroyuki MATSUMURA	JPN	01:23.775

関連 Web Site

レーシングドライバー 松村浩之

<http://www.hiro-matsumura.com/>

Deutsche Formel 3 Vereinigung

<http://www.formel3.com/>

SWISS RACING TEAM

<http://www.swissracingteam.ch/>